

# DataSpider Cloud

## Google Workspace アダプタ OAuth 2.0 接続設定ガイド

ドキュメント・リリース日: 2023 年 6 月 1 日 (第 7 版)



© SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD. 2017

# 目次


改訂履歴	1
1. はじめに	2
1.1. 注意事項	3
1.1.1. お客様へのお願い	3
1.1.2. 商標について	3
1.2. 表記について	3
1.3. マークについて	5
2. Google Workspace アダプタのグローバルリソースについて	6
2.1. OAuth 2.0 の認証フロー	6
3. OAuth 2.0 による接続の設定方法	7
3.1. アダプタごとの設定の流れ	7
3.2. Google Cloud Platform 上の設定	7
3.2.1. プロジェクトの作成	8
3.2.2. API の設定	8
3.2.3. 認証情報の発行	9
3.3. Gmail アダプタの OAuth 2.0 認証グローバルリソース作成手順	10
3.4. Google ドライブアダプタのグローバルリソース作成手順	11
3.5. Google スプレッドシートアダプタのグローバルリソース作成手順	12


# 改訂履歴


版数	発行日	改訂履歴
第1版	2017年1月22日	・初版発行
第2版	2019年5月9日	・「3.1.1 Windows Server 2016の場合」の追加 ・「3.2. Google Cloud Platform上の設定」の手順を変更 ・「3.3. Googleドライブアダプタのグローバルリソース作成手順」を変更 ・「3.4. Googleスプレッドシートアダプタのグローバルリソース作成手順」を変更 ・社名や商標などを変更
第3版	2019年6月25日	・商標などを変更
第4版	2020年3月18日	・レイアウトなどを変更
第5版	2020年8月25日	・「2. G Suiteアダプタのグローバルリソースについて」を変更 ・「2.1. OAuth 2.0の認証フロー」を変更 ・「3. OAuth 2.0による接続の設定方法」を変更 ・「3.1. 各アダプタごとの設定の流れ」を変更 ・「3.2.2 APIの設定」を変更 ・「3.2.3 認証情報の発行」を変更
第6版	2022年9月5日	・「3.2 Google Cloud Platform 上の設定」を変更 ・「3.3 Gmail アダプタの OAuth 2.0 認証グローバルリソース作成手順」を変更 ・「3.4 Google ドライブアダプタのグローバルリソース作成手順」を変更 ・「3.5 Google スプレッドシートアダプタのグローバルリソース作成手順」を変更 ・レイアウトなどを変更
第7版	2023年6月1日	・サービス名の表記を「G Suite」から「Google Workspace」に変更 ・コピーライトの表記を変更 ・DataSpider ロゴ画像を変更


# 1. はじめに


本ドキュメントでは、DataSpider Cloud Google Workspaceアダプタ(以下、Google Workspace アダプタ)の OAuth 2.0 接続設定方法について記述します。

 Google Workspaceアダプタの使用方法については、「DataSpider Cloudヘルプ」を参照してください。

 本ドキュメント内の Google Cloud Platform の操作手順は、2022年7月現在の Google Cloud Platform の情報をもとにしています。今後、仕様が変更される可能性があります。

 Google Cloud Platform の詳細については、Google Cloud Platform Console ヘルプ (<https://support.google.com/cloud>) を参照してください。

 Google Workspace のサポート対象ブラウザについては、Google Workspace 管理者 ヘルプ「Google Workspace のサポート対象ブラウザ」 (<https://support.google.com/a/answer/33864>) を参照してください。

 最新の情報を記載したドキュメントについては、「myHULFT」 (<https://his.hulft.com/mypage>) から入手して参照してください。

## 1.1. 注意事項

### 1.1.1. お客様へのお願い

- 本ソフトウェアの著作権は株式会社セゾン情報システムズまたはそのライセンサーが所有しています。
- 本ソフトウェアおよび本ドキュメントを無断で複製、転載することを禁止します。
- 本ドキュメントは万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- 本ソフトウェアは使用者の責任でご使用ください。ご使用の結果、万一トラブルおよび訴訟などが発生し、または、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきまして、弊社は一切責任を負わないものとします。あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様や本ドキュメントに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更されることがあります。
- 本ソフトウェアの使用には、ソフトウェアライセンス契約が必要で、株式会社セゾン情報システムズまたはそのライセンサーの重要な業務機密と独自の情報が含まれており、日本国政府の著作権法で保護されています。株式会社セゾン情報システムズまたはそのライセンサーのソフトウェアと本ドキュメントの無断使用は、損害賠償、刑事訴訟の対象となります。

### 1.1.2. 商標について

- DataSpider、DataSpider ロゴ、DataSpider Cloud、その他の関連製品名、サービス名などは、株式会社セゾン情報システムズの登録商標または商標です。
- その他記載されている会社名・商品名・サービス名などは、各社の商標および登録商標です。
- 個々のページに表示・記載されたこれら商標などの複製・転用を禁止致します。

## 1.2. 表記について

本ドキュメント内の表記は、次の規則に沿って行われています。

- DataSpider Cloud の画面に表示されるメニュー名・タブ名・プロパティ項目名および値・ボタン名は [ ] で囲んで太字で表します。また、それ以外の機能名や画面のタイトル、名称のないものは「」で囲んで前者と区別しています。




- <と> で囲まれた名称は、可変であることを表します。

例: /logs/<日付ディレクトリ>

- 本ドキュメント内に表記されているウェブサイトの URL は 2022年7月現在のものです。ウェブサイトの都合などにより、予告なしに URL が変更になる場合があります。
- 「Studio」とは「DataSpider Studio」を指します。
- 「DSS-」で始まる番号は、各問題の管理用の一意な ID となります。

## 1.3. マークについて

本ドキュメント内で使用しているマークについての説明は以下の通りです。

マーク	説明
	操作や設定に関するヒントであることを表します。
	操作や設定に関する注意事項や制限事項であることを表します。
	詳細な説明が別の項目に記載されていることを表します。

## 2. Google Workspace アダプタのグローバルリソースについて

事前に接続サービス側の OAuth 2.0 認証を設定した上、グローバルリソースに対応する認証情報を設定する必要があります。

アダプタ	グローバルリソース種類名
Gmailアダプタ	Gmail OAuth 2.0認証設定
Googleドライブアダプタ	GoogleドライブOAuth 2.0認証設定
Googleスプレッドシートアダプタ	GoogleスプレッドシートOAuth 2.0認証設定

本ドキュメントでは、Google Workspace アダプタの OAuth 2.0 による接続を行う際の設定について説明します。

### 2.1. OAuth 2.0 の認証フロー

OAuth 2.0 による接続では、認可コードを使う方式 (Authorization Code Grant Flow) で認証フローを実現します。認証フローの詳細については、以下のページを参照してください。

- ウェブサーバー アプリケーションに OAuth 2.0 を使用する  
(<https://developers.google.com/identity/protocols/oauth2/web-server>)

OAuth 2.0 による接続ではアクセストークンとリフレッシュトークンを使用するため、グローバルリソースの作成時に取得する必要があります。



## 3. OAuth 2.0 による接続の設定方法

OAuth 2.0 による接続の設定は、Google Cloud Platform(ウェブブラウザ上)と使用するアダプタ(DataSpider Studio 上)双方で行います。

### 3.1. アダプタごとの設定の流れ

アダプタごとの設定の流れは、以下の通りです。

 詳細については、それぞれのリンク先の説明を参照してください。

- Gmail アダプタ
  1. [Google Cloud Platform 上で設定を行う](#)
  2. [Gmail アダプタの OAuth 2.0 認証グローバルリソースを作成する](#)
- Google ドライブアダプタ
  1. [Google Cloud Platform 上で設定を行う](#)
  2. [Google ドライブアダプタのグローバルリソースを作成する](#)
- Googleスプレッドシートアダプタ
  1. [Google Cloud Platform 上で設定を行う](#)
  2. [Google スプレッドシートアダプタのグローバルリソースを作成する](#)

### 3.2. Google Cloud Platform 上の設定

Google Cloud Platform( <https://console.cloud.google.com/apis/dashboard> ) にアクセスし、ログインしてください。

Google Cloud Platform のプロジェクトにクライアントが利用する API を設定して、接続するための認証情報 (クライアントID、クライアントシークレット) を発行します。プロジェクト未作成の場合はプロジェクトを作成してください。

### 3.2.1. プロジェクトの作成

Google Cloud Platform にプロジェクトを作成します。認証情報はプロジェクト内で管理されるため、少なくとも一つ以上のプロジェクトを作成しておく必要があります。

 既存のプロジェクトを使用する場合、この手順を実施する必要はありません。

1. Google Cloud Platform 画面上部のプルダウンメニュー「<プロジェクト名>▼」（プロジェクトを選択していない場合は「プロジェクトの選択▼」）を開いて、「新しいプロジェクト」を押下します。
2. 「新しいプロジェクト」ダイアログにて必要な項目を設定し、「作成」を押下します。
3. 作成処理完了後、画面上部のプルダウンメニューからプロジェクトを選択すると、プロジェクトのダッシュボードが表示されます。

### 3.2.2. API の設定


Google Cloud Platform で作成したプロジェクトに、クライアントが利用する API を設定します。

 クライアントが利用する API を設定済みの場合、この手順を実施する必要はありません。

1. Google Cloud Platform 画面上部のプルダウンメニュー「<プロジェクト名>▼」を開いて、対象プロジェクトを選択します。
2. サイドバーの「ライブラリ」を押下し、検索ページを表示します。
3. 有効化するAPIを選択し「有効にする」を押下します。認証情報の設定を促すメッセージが表示される場合、APIの有効化が完了した後で「[認証情報の発行](#)」を実施してください。
  - a. Gmail アダプタの OAuth 2.0 認証グローバルリソースを利用する場合、「Gmail API」を有効化してください。
  - b. Google ドライブアダプタを利用する場合「Google Drive API」を有効化してください。
  - c. Google スプレッドシートアダプタを利用する場合「Google Drive API」と「Google Sheets API」を有効化してください。
4. 画面左上の「≡」を押下し、「APIとサービス」の「ダッシュボード」を押下します。ダッシュボードの「API」から使用しない API を無効にします。

### 3.2.3. 認証情報の発行

Google Cloud Platform のプロジェクトに認証情報を追加します。追加した認証情報は DataSpider Cloud のグローバルリソースに使用します。

 一つのプロジェクト内で複数件の認証情報を作成できます。

 認証情報を発行・更新してから、Google のサービスに完全に反映されるまで時間がかかる場合があります。

1. Google Cloud Platform 画面上部のプルダウンメニュー「<プロジェクト名>▼」を開いて、対象プロジェクトを選択します。
2. 画面左上の「≡」を押下し、「APIとサービス」の「認証情報」を押下します。プルダウンメニュー「+ 認証情報を作成」の「OAuth クライアント ID」を押下します。
3. アプリ情報の設定を促すメッセージが表示された場合、「同意画面を設定」を押下し、同意画面に必要な項目を設定して、保存します。
4. 以下の項目を設定し、「作成」を押下します。

OAuth クライアント ID の作成

項目名	設定する値
アプリケーションの種類	ウェブ アプリケーション
名前	<任意の名前>
承認済みのリダイレクト URI	<a href="https://front.dataspidercld.com/_adapter/oauth/redirect_target.html">https://front.dataspidercld.com/_adapter/oauth/redirect_target.html</a>

5. クライアントの認証情報が作成されて、「OAuth クライアント」ダイアログに表示されます。

### 3.3. Gmail アダプタの OAuth 2.0 認証グローバルリソース作成手順

「[認証情報の発行](#)」で登録済みのアプリケーション認証情報をもとに、Gmail アダプタの OAuth 2.0 認証グローバルリソースを作成します。



グローバルリソースは承認する際に使用した Google アカウントにひも付けられます。Google アカウントを識別しやすいリソース名の使用を推奨します。



Google Cloud Platform の認証情報設定画面でクライアントシークレットを変更した場合、変更前のクライアントシークレットを指定したグローバルリソースの **[クライアントシークレット]** と **[リフレッシュトークン]** を更新・再発行する必要があります。

1. Gmail アダプタのグローバルリソース **[Gmail OAuth 2.0認証設定]** を新規に作成します。
2. グローバルリソースのプロパティ項目を設定します。

プロパティ項目名	設定する値
クライアントID	Google Cloud Platform で取得した「クライアント ID」
クライアントシークレット	Google Cloud Platform で取得した「クライアント シークレット」
リダイレクトURI	Google Cloud Platform で追加した「承認済みのリダイレクト URI」

3. プロパティアクションの **[トークンを発行する...]** を押下します。
4. 「認可コードの設定」ダイアログの **[認可コード取得...]** を押下すると既定のブラウザで Google のユーザログイン画面が表示されます。
5. Google のユーザでログインし、アクセス許可を承認します。
6. ブラウザウィンドウに表示された認可コードをコピーして、「認可コードの設定」ダイアログの「認可コード」にペーストして設定します。
7. **[リフレッシュトークン]** に発行されたトークンが設定されます。

## 3.4. Google ドライブアダプタのグローバルリソース作成手順

「[認証情報の発行](#)」で登録済みのアプリケーション認証情報をもとに、Google ドライブアダプタのグローバルリソースを作成します。



グローバルリソースは承認する際に使用した Google アカウントにひも付けられます。Google アカウントを識別しやすいリソース名の使用を推奨します。



Google Cloud Platform の認証情報設定画面でクライアントシークレットを変更した場合、変更前のクライアントシークレットを指定したグローバルリソースの **[クライアントシークレット]** と **[リフレッシュトークン]** を更新・再発行する必要があります。

1. Google ドライブアダプタのグローバルリソース **[GoogleドライブOAuth 2.0認証設定]** を新規に作成します。
2. グローバルリソースのプロパティ項目を設定します。


プロパティ項目名	設定する値
クライアントID	Google Cloud Platform で取得した「クライアント ID」
クライアントシークレット	Google Cloud Platform で取得した「クライアント シークレット」
リダイレクトURI	Google Cloud Platform で追加した「承認済みのリダイレクト URI」

3. プロパティアクションの **[トークンを発行する...]** を押下します。
4. 「認可コードの設定」ダイアログの **[認可コード取得...]** を押下すると既定のブラウザで Google のユーザログイン画面が表示されます。
5. Google のユーザでログインし、アクセス許可を承認します。
6. ブラウザウィンドウに表示された認可コードをコピーして、「認可コードの設定」ダイアログの「認可コード」にペーストして設定します。
7. **[リフレッシュトークン]** に発行されたトークンが設定されます。

## 3.5. Google スプレッドシートアダプタのグローバルリソース作成手順

「[認証情報の発行](#)」で登録済みのアプリケーション認証情報をもとに、Google スプレッドシートアダプタのグローバルリソースを作成します。

 グローバルリソースは承認する際に使用した Google アカウントにひも付けられます。Google アカウントを識別しやすいリソース名の使用を推奨します。

 Google Cloud Platform の認証情報設定画面でクライアントシークレットを変更した場合、変更前のクライアントシークレットを指定したグローバルリソースの **[クライアントシークレット]** と **[リフレッシュトークン]** を更新・再発行する必要があります。

1. Google スプレッドシートアダプタのグローバルリソース **[GoogleスプレッドシートOAuth 2.0認証設定]** を新規に作成します。
2. グローバルリソースのプロパティ項目を設定します。

プロパティ項目名	設定する値
クライアントID	Google Cloud Platform で取得した「クライアント ID」
クライアントシークレット	Google Cloud Platform で取得した「クライアント シークレット」
リダイレクトURI	Google Cloud Platform で追加した「承認済みのリダイレクト URI」

3. プロパティアクションの **[トークンを発行する...]** を押下します。
4. 「認可コードの設定」ダイアログの **[認可コード取得...]** を押下すると既定のブラウザで Google のユーザログイン画面が表示されます。
5. Google のユーザでログインし、アクセス許可を承認します。
6. ブラウザウィンドウに表示された認可コードをコピーして、「認可コードの設定」ダイアログの「認可コード」にペーストして設定します。
7. **[リフレッシュトークン]** に発行されたトークンが設定されます。

**DataSpider Cloud**

**Google Workspace アダプタ OAuth 2.0 接続設定ガイド**

第 7 版 2023.6.1

株式会社セゾン情報システムズ